東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 10 月 31 日

現世と来世のバランス

親愛なるムスリムの皆様。

多くの思想家が、この世界を１つの海に、流れ去っていく私達の一生を、海を行く１つの船に例えます。この世という海を旅する私達旅人は、自分達に課せられた任務を果たすことによってのみ、無事に岸辺にたどり着くことができるのです。

私達が目指す岸辺へ向かって進む時には、私達が旅人である事を忘れないこと、その船にも、海にも、そしていつかたどり着く海岸にも持ち主があり、その持ち主の指図に従うことが私達の義務ではないでしょうか。その指図は、最も細かい義務から、全人類を包括するような大きなものに至るまで、全てが、生におけるバランスを提言します。一方で、私達が航路をとっている、来世での幸福へ至る為の努力、一方でこの世の生に関する義務を果たす努力、この２つの間のバランスです。

親愛なるムスリムの皆様。

現世と来世との間のバランスという観点から、人は３つのグループに分類することができます。

第１のグループ　物質的な富と現世の為のみに働く。来世の存在を完全に忘れている人々。この人々が自らを永遠の損失へと陥れていることは、クルアーンで明白に記されています。

第２のグループ　現世での生を完全に忘れ、過度といえる状態に至った人々です。キリスト教の修道士を思い起こさせるようなこういった生き方は、イスラームでは決して勧められず、また承認されません。

第３のグループ　中道を行く人達です。彼らは現世の為に来世を放棄することなく、来世の為に現世も放棄しない。バランスはこれなのです。

生き方においてこのバランスを見出すことのでいる人は、この世界が来世へと続く道であることを知り、現世と来世双方における幸福を手にする幸運な人々です。この意識を持って生きる人は、ただアッラーの命令に従う時ばかりでなく、ハラールの糧を手にしようと努力すること、食事、さらには睡眠においてすら、イバーダに値する程の価値を手にします。

大切な兄弟姉妹の皆様。

人間の存在を祝福されたことと見なすイスラームでは、一時的なものであるとはいえ、この世界で困窮して生きることを信者にとってふさわしいとは見なしません。永遠の幸福の為に努めつつ、現世的なものの為にも働き、誰にも重荷にならずに生きることが要求されます。与える手を、受け取る手よりも上に見なすのです。だから怠惰であることは天性のあり方に反するものであると同時に、イスラームにも合致しないものなのです。

比類なき指導者預言者ムハンマドは、日々の生活においてイバーダに時間を取られると同時に、ムスリム達や家族の仕事をもこなされ、食料や他の必要物資の確保の為、努力されました。それだけではなく、助けを必要とする人達の苦痛を取り除く為に努力され、病人を訪問され、親戚や友人達を訪ねられ、助けられたのです。

預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）を模範とするのであれば、このお方が現世と来世双方を視野に入れて努力を払われていた、と言うことを無視するわけにはいかないのです。

ドゥアーにおいてすら、現世と来世のバランスを勧めるクルアーンの章句を紹介し、今日のフトバを締めくくりたいと思います。「主よ、現世でわたしたちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください。」（雌牛章第２０１節）